

サインは、極めて不統一で町としてのアイデンティティはないのが現状である。そこで、「食べ歩き・楽しみ・癒し」観光ルート在先導的実践エリアである長山街道をモデルに、産学官の視点から、町内を移動する観光客が必要とする観光情報を現地において適切に提供する観光案内表示の整備を進めるための、観光サインのデザイン研究と観光ルートの魅力向上研究が求められている。

観光サインのデザイン研究と観光ルート提案は、映像メディア研究室の学生及び卒業生が長山街道のパフレットを作成する経験によって基礎ができており、さらなる研究課題として相応しいものといえる。統一感のあるサインデザイン及び観光ルートの提案によって雫石町の魅力を今以上に引き出し、地域の活性化に貢献できるものとなる。

(本地域課題の担当者部署は、岩手県・雫石町役場観光商工課)

2. 本研究課題についての当初の実施計画

研究課題学生は、地域課題提案者との協議により、以下のデザイン研究に基づく提案を順次実施する。

1. 現地調査 (研究課題学生と地域課題提案者との打ち合わせを含む)
観光ルートへ入り現地調査
2. 観光サインデザインコンセプト (研究課題学生によるサインデザインの提案)
景観の視点からのデザインコンセプト作成
3. 観光モデルルート魅力向上 (研究課題学生による関連グッズデザインの提案)
長山街道の共通グッズの開発とデザインの制定
4. 全町への波及効果を高めるための方策 (研究課題学生による観光ルートの提案)
「御所街道」や「橋場街道」など新たな観光ルートの開発

3. 研究課題の見直しと変更

昨年度末から今年度前期に至っては、震災の影響で大きく予定が変更を余儀なくされたこと、また、雫石町役場からの要望の変化もあったことによって、その都度、双方で協議して研究課題を修正することとし、年度内で実施可能なものに限定して実施した。その経緯と成果報告については以下にまとめる。

II 本研究課題の実施報告

1. 本研究課題に関する打ち合わせ

本研究課題への着手にともない、平成 23 年度前期においては、双方が電話連絡及びメールで確認し合い、本研究課題に向けた研究室学生の表現技術の向上、そして企画構想の準備をした。2011 年 9 月 14 日 (水) に、雫石町役場観光商工課担当者との第 1 回打ち合わせを盛岡市地域連携推進センター (コラボ MIU) 1 F ロビーにて行った。出席者は、下川原正

之（観光商工課）、川村佳樹（観光商工課）、大山奥人（芸術文化課程4年）、本村健太（指導教員）の4名であった。この時点では、研究課題の実施について、「新しい観光ルート」・「サイン計画」・「グッズ等」の提案という三つの観点で実施することの変更はないが、初年度の研究であることから基礎固めに留まるであろうことを確認した。（この機会に雫石町の観光資料等入手。）

11月10日（木）、第2回打ち合わせを教育学部3号館映像メディア演習室にて実施した。出席者は前回と同様。（また、研究室学生数名が同席。）このときに、雫石町側では当面、「歓迎塔」と「観光案内板」の原案を望むということを確認し、以後の計画を修正した。また、全体のテーマは、雫石町の資料より、「しずくが潤す大地の恵み 雫石」とした。



図：雫石町の過去及び現在の歓迎塔・案内板の事例

2. 雫石町調査旅行の実施

研究室学生（2・3年生）らによる雫石町調査旅行を、11月3日（木）に実施した。2・3年生混合で、小岩井組（タクシー）、あねっこ組（車）、手づくり村組（徒歩）の3班に分かれ、それぞれ現地の体験をした。

以下は、参加学生による率直な感想である。

- 小岩井組（タクシー）
 - ・バスが少ない（車がないと不便）
 - ・農場から移動できない
 - ・雫石のオリジナルグッズもついでに置けばいいのに
- あねっこ組（車）
 - ・秋田との県境でお土産には秋田のものも（稲庭うどん）

- ・温泉あり
- ・土日は混んでいる
- ・産直やハーブ園もあり

○ 手づくり村組（徒歩）

- ・パンフレットがださい
- ・駅の外にわかりやすい看板がほしい
- ・他のところに行きにくいから、手づくり村だけで終わってしまう
- ・周辺に観光施設がない

○ 全体の感想

- ・目的地1つだけで終わってしまう
- ・温泉と連携して、宿泊して観光施設を回るようなツアーがあればいろいろ回れる
- ・観光ルート→駅からは無理かなー



図（左）：徒歩の調査旅行実施中、図（右）：あれ？これしずくちゃん？？？

○ ある学生の感想：

まず、5、6キロという距離を甘く見ていました。

ということで、この一日の歩数が約21000でした。（平均：7000歩）

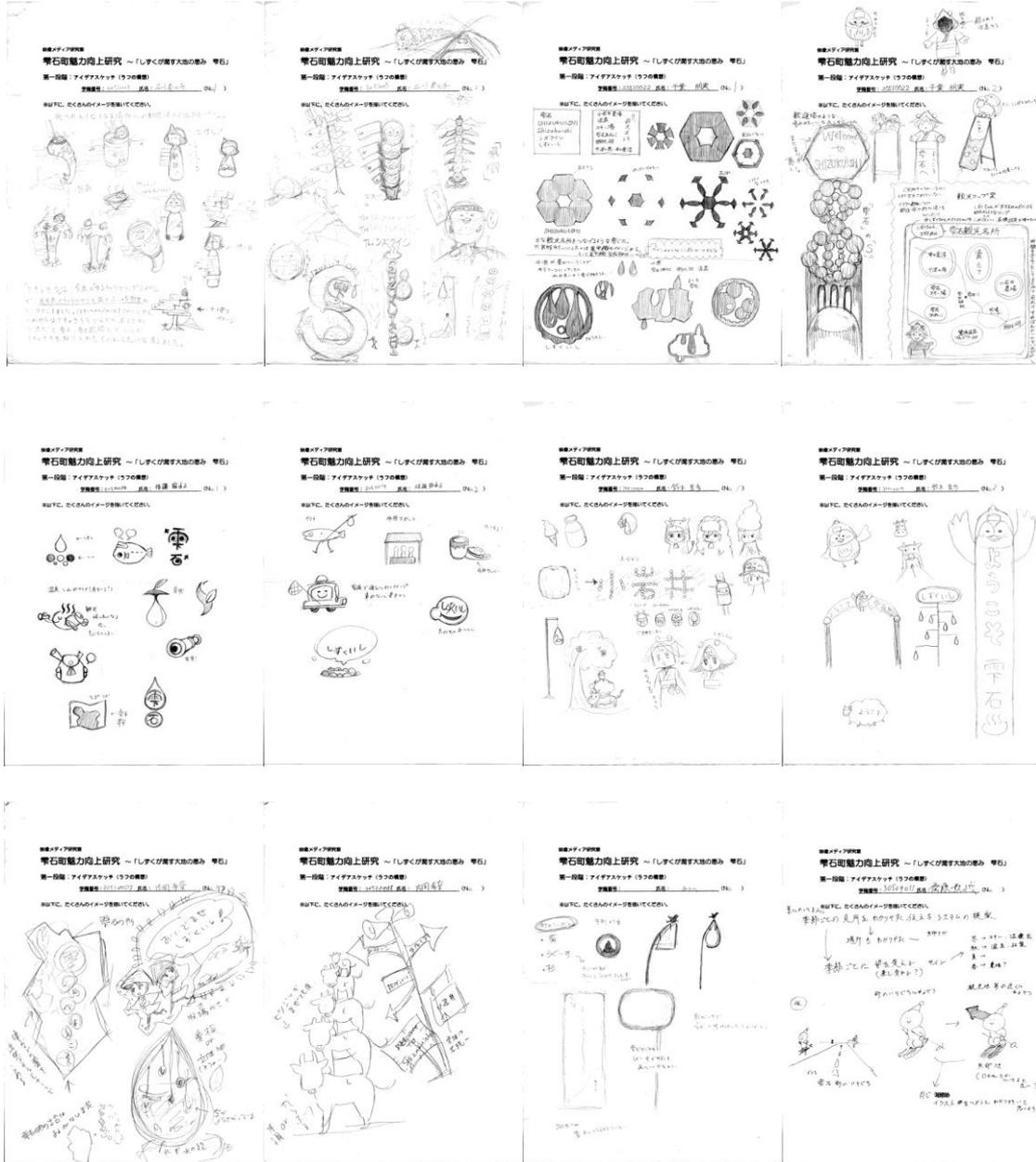
あ、体力つけたい人はいいかもかもしれません！！

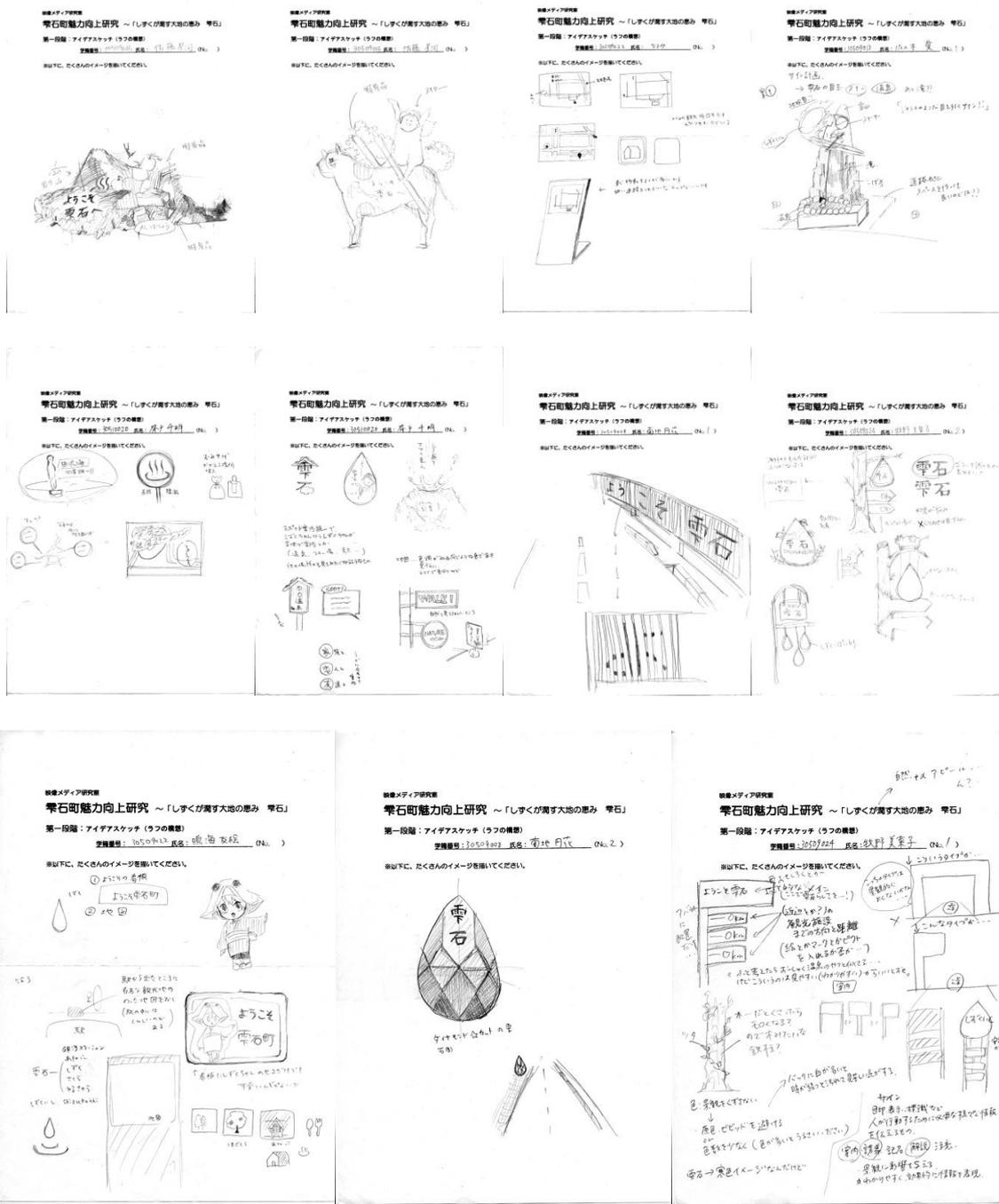
いやしかし、来たことない町の中を歩くのは実におもしろいものでした。景観もなかなか良かったですし^^ 疲れたものの、いい感じの充実感がありました。

3. 第1段階：アイデアスケッチ（ラフの構想）

雫石町調査旅行を経験したうえで、11月17日（木）よりアイデアスケッチを2・3年生で開始した。テーマを「しずくが潤す大地の恵み 雫石」として、ブレインストーミング的にイメージの創出を図るのが課題（ラフの構想）である。期間は12月初旬までとし、その後のデザイン方針の検討に生かすこととした。

以下、提出されたアイデアスケッチの結果である。





4. 第2段階：デザイン案の選定と洗練

大山奥人をまとめ役とし、3年生の学生らを中心に、デザイン案の検討会議を重ねた。コンセプトを明確にし、その都度、実際にイメージを制作しながら、デザインを洗練させていくこととした。

提出されたアイデアスケッチを参考としながら、さらに現実的なデザイン案へと高めていき、具体的なイメージを元に最終案へと導いていく。



図：検討会議の過程で制作された案の例

III 本研究課題の成果：デザイン案の決定（歓迎塔と案内板）

検討会議を重ね、以下のように最終案が決定した。

雫石魅力向上研究

歓迎塔

①文字 全体図

<表面> <裏面>
星空をイメージ

※ 縦：横＝約6：1とし、縦は6m以上とする。

②しずくの加工

くり抜き → 磨りガラス (中に電球)

案内板 ▼歓迎塔と同色、同型で統一感を持たせた。また、ブロックを積み重ねたような配置で遊び心を出した。

雫石魅力向上研究

▼記載するもの
日本語、英語、距離の他に施設を表現したシンボルを入れることによって視覚的にわかりやすくする。

▼+α
季節ごとに変わる名所に合わせて案内板の内容を変える。(ブロックに固定用の突起を設置しパネルをスライドさせてはめる。)

▼カラーバリエーション

観光のご案内
Tourist Information

雫石スキー場 ΔKm
Shizukuishi Ski Area

鸕宿温泉 ΔKm
Ousuku Hot Springs

一本桜 ΔKm

季節別用

○ 指導教員（本村健太教授）のコメント：

（歓迎塔）

いろいろと議論した結果、景観を損ねないもので、シンプルかつ明確なイメージの伝わるデザインとなりました。

風力発電、太陽電池でLED照明を内部に組み込むのもいいかもしれません。

（案内板）

やはり景観を損ねないもので、分かりやすい案内板のデザインとなりました。歓迎塔との統一感がこだわりのようです。

こちらにも雫のマーク、LED照明を内部に組み込むのもいいかもしれません。